

産業水道常任委員会会議記録

日 時 平成28年8月23日(火曜日)

午前10時 2分 開議

場 所 水戸市議会 第2委員会室

午前10時46分 散会

付託事件

(1) 所管事務調査

1 本日の会議に付した事件

(1) 報告事項

① 第5回水戸まちなかフェスティバルについて (商工課)

② 一黄門さまの歩いた道一第12回水戸黄門さま漫遊ウォークについて (観光課)

(2) その他

2 出席委員(7名)

委員長 栗原文隆君 副委員長 小川勝夫君

委員 綿引健君 委員 鈴木宣子君

委員 田口文明君 委員 渡辺政明君

委員 内藤丈男君

3 欠席委員(なし)

4 委員外議員出席者(1名)

議長 村田進洋君

5 説明のため出席した者の職、氏名

副市長 田尻充君

産業経済部長 小田木健治君 産業経済部技監兼農業環境整備課長 渡邊雅之君

商工課長 小林一仁君 観光課長 小川邦明君

農政課長 深澤和広君 農業技術センター所長 清水健司君

公設地方卸売市場長 綿引正治君

水道事業者 檜山隆雄君 水道部長 関徳彦君

水道部参事 伊藤俊夫君 水道部参事兼水道総務課長 小田木義弘君

水道部参事兼経理課長 青木貴君 料金課長 島孝夫君

水道整備課長 橋本大敬君 給水課長 岡田隆君

浄水管理事務所 川原井 正 浩 君
所 長

農業委員会 江 幡 清 美 君
事務局 長

6 事務局職員出席者

法制調査係長 井 原 真 彌 君 書 記 玉 田 誠 一 君

午前10時 2分 開議

○栗原委員長 おはようございます。

定足数に達しておりますので、ただいまから産業水道委員会を開会いたします。

議事に先立ちまして、横山農業委員会事務局次長が公務出張のため欠席との連絡がございましたので、御報告いたします。

それでは、これより議事に入ります。

初めに、報告事項の説明を行います。

なお、本日は定例会前の委員会ではございますが、第3回定例会に提出を予定している案件にかかわる報告事項はございませんので、御了承願います。

それでは、第5回水戸まちなかフェスティバルについて、執行部から説明願います。

小林商工課長。

○小林商工課長 それでは、第5回水戸まちなかフェスティバルにつきまして、商工課提出の資料により御説明をさせていただきます。

まず、1の目的でございますが、本市の中心市街地のメインストリートでございます国道50号を舞台に、商店街団体など市民との協働によるイベントを開催し、中心市街地の魅力創造やにぎわいの創出を通し、商業、観光の振興を図るものであります。

2の名称につきましては、第5回水戸まちなかフェスティバルといたしまして、水戸まちなかフェスティバル実行委員会が主催をいたします。

4の日程につきましては、9月25日曜日、午前10時から午後4時までの時間で実施してまいります。

なお、交通規制といたしまして、前後1時間ということで、午前9時から午後5時までを予定しております。基本的には、雨天の場合でも開催予定でございます。

次に、5の会場でございますが、昨年と同様に、国道50号大工町交差点から水戸中央郵便局前交差点までを歩行者天国とするほか、国道50号銀杏坂歩道部分、水戸駅北口ペDESTリアンデッキ、南町自由広場など中心市街地で開催してまいります。

6の事業内容につきましては、イベントのテーマといたしまして、秋のストリート文化祭として、水戸のおもてなしを感じてもらおうをコンセプトにして、ストリート文化祭に厚みを加え、大人から子どもまで地元の魅力を堪能して、おもてなしを感じてもらい、また来たいと言ってもらえるイベントを出展団体の皆様とともに目指すこととしております。

(3)のイベントの内容といたしましては、中心市街地のメインストリートを中心に、アート、ワークショップ、エンターテインメント、グルメ、マーケットなどをテーマとした、全部で71のさまざまな催しを行ってまいります。

7の宣伝といたしまして、行事案内チラシ、ポスターを初め、「広報みと」や市のホームページ、フェイスブック等のソーシャルネットワーキングサービス、テレビ、ラジオ、情報誌などのマスメディア、街頭キャンペーン、そして、みとの魅力宣伝部長によりますPRなどで宣伝を行ってまいります。

その他といたしまして、中心市街地の交通渋滞の緩和のため、桜山及び公設地方卸売市場、これらの駐車

場から無料シャトルバスでイベント会場へ輸送するパークアンドバスライドを、昨年と同様に実施してまいります。

このほか、今回のイベントの変更点と申しますか、見直し点につきましては、高校生ボランティアの参加や負担金の徴収など、市民との協働や自主運営に向けた取り組みも実施してまいりたいと考えております。

高校生ボランティアにつきましては、より多くの高校生の参加を促すため、ボランティアとしての参加を呼びかけておりまして、会場の案内ですとか美化活動、アンケート調査の実施などに取り組んでいただきます。

また、負担金の徴収につきましては、イベントの自主、自立した継続的な運営に向けまして、飲食、物販を行う各出店団体の皆様に御理解をいただきまして、一部負担金の拠出を求めることとしたところであり、運営経費の一部に充ててまいりたいと考えております。

また、前回から課題となっておりましたトイレや休憩所につきましては、トイレを13カ所から15カ所に、休憩所につきましては4カ所から6カ所にそれぞれ設置箇所をふやしまして、充実を図ってまいります。

なお、フェスティバルの詳細につきましては、お手元のチラシを後ほど御参照願います。

このほか、ガイドブックにつきましては現在作成中でございますので、でき上がり次第、議員の皆様へ配付させていただきますので、よろしく願いいたします。

あわせて、委員の皆様には後日、御案内状をお送りいたしますので、ぜひ御来場いただきますよう、この場をおかりしましてお願い申し上げます。

説明は以上でございます。

○栗原委員長 内容について御質問等がございましたら、発言を願います。

鈴木委員。

○鈴木委員 まず、第5回ということで、かなり市民の皆さんになれ親しんできたようなものになってきているかと思うんですけども、今回、新しく見直したということで、高校生ボランティア、これは、どのように声をかけていらっしゃるのか。どこの高校かとか、もしわかればお伺いしたいのと、もう1点は、負担金につきましては、飲食、あと物販ということで、金額的な定め方はどのようにされているのか。この2点、お伺いいたします。

○栗原委員長 小林商工課長。

○小林商工課長 ただいまの鈴木委員からの、高校生ボランティアを集める手法と申しますか、どのように集めたのかという御質問でございますが、市民協働部と教育委員会をそれぞれ通しまして、高校生で活動して組織しております高校生ボランティア連絡協議会というものがございまして、サブリーダーズ会と言われているものですが、そちらに協力を依頼したりですとか、あとは、こみっとフェスティバルと申しまして、市民協働部で開催しておりますイベントに主に協力をいただいております高校生の活動グループがございまして、そちらを中心に呼びかけをさせていただいております。

それから、負担金にかかわる御質問でございますが、これにつきましては、先ほど御説明いたしましたとおり、自主、自立の運営に向けまして今年度から取り組んだものでございますが、歩行者天国の中で出店される団体さんにつきましては均等割、それから、占有します延長によりまして、負担金にちょっと区分をさ

せていただきまして、10メートルにつき3,000円をいただくというような形でお願いをさせていただいております。

それから、歩行者天国の外、歩行者天国に入らない部分で出店される団体さんにつきましては、均等割の1,000円のほうのみ徴収させていただくということで御理解をいただきまして、負担金としていただいたものでございます。

○栗原委員長 鈴木委員。

○鈴木委員 ありがとうございます。

歩行者天国以外といいますと、どこかに入ったところとかということで、ごめんなさい。

○栗原委員長 小林商工課長。

○小林商工課長 歩行者天国、メインストリート沿いが、主に応分割をいただく箇所でございますが、銀杏坂の部分ですとか、そのあたりは歩道部分で開催することとしておりまして、その部分で出店される方で物販などをされる方につきましては、均等割のみいただいております。

○栗原委員長 よろしいですか。

ほかにございませんか。

渡辺委員。

○渡辺委員 第5回というようなことで、この水戸まちなかフェスティバルも定着をしてきたということで、本当に担当の皆様御尽力には敬意を表しております。

別に、これといって質問ではないんですけども、私、常々ちょっと感じているのは、非常に活性化とか再生とか、そういうテーマのもとで、または大震災の復興支援とか、そういうテーマで、こういうようなイベントを数多くやられておりまして、全て意義のあるものだと思うんですけども、できれば少し、その辺の整理整頓をする時期が来ているのかなという気がしてなりません。

そういう部分で、今回の出店するところを見てもそうなんですけれども、商店街さんは会として参加はしているんですね。ここだけ、道路のストリートには人がたくさん集まるんでしょうけれども、個々の商店にはどういう、例えばこの機会を通して、どういう、いわゆるアプローチをしているのか。例えば、洋品店ならこういうものをやって、来た人にこういうアプローチで、幾らかでもうちの店の個性を知ってもらうとか商品を知ってもらうと、またリピーターとして来てもらうというような努力。個々の商店はこういうふうに、商店街はいろいろやっているようなんですけども、個々の商店はどういう意識で、どういう取り組みしているのか。そういう現況は把握しておりますか。

○栗原委員長 小林商工課長。

○小林商工課長 ただいまの渡辺委員からの個々の商店の取り組みに関する御質問でございます。

先ほど渡辺委員からも御発言がございましたとおり、各商店街の皆様には実行委員として、このイベントにかかわっていただいております。そういった中で、個々の商店の皆様につきましては、繰り返しリピーターとして、お客様に水戸の町なかにお越しいただけるように、このイベントに合わせまして、ワンコイン商店街というイベントを同時に開催しております。

各店舗のお勧め商品などを100円ですとか500円で提供していただくようなことに賛同いただきまし

て、例えばワゴンで売り出しをしたりとか、そういった形で集客をしていただくというところで、参加を呼びかけさせていただきまして、これに賛同していただきまして、ぜひこのお祭り、イベントに力をかそうじゃないかというふうに言っていたところでございます。

今後ともこういった取り組みは、集客の面でも非常に大事でございますので、各個店の皆様とも協力しながら継続をしていきたいと考えております。

○栗原委員長 渡辺委員。

○渡辺委員 その努力が実るとということが求められているのかなと。実るというのはどういうことかというところ、やはり、例えば黄門まつりにしても、土日、たくさん人が集まりましたし、それだけの人が集まるということは、やはり通年で中心地区、商店街を含めたあの地区に、そういう人たちのにぎわいを創出していきたいという大きな目的があると思うんですね。イベントは目的ではなくて、そういう一つの大きな、あの中心地区の再生、商店街の力強い新たな取り組みというようなことを期待しての手段の一つだというふうに私は理解しております。

したがって、先ほど、冒頭に戻るんですけども、イベントがこれだけたくさんあると、消費者のほうもイベントになれて、ここだけでイベントをやっている、ほかはやっていない、イオンのほうは何もやっていないとか、あっちのほうもやっていない、ひたちなか市のほうでも何もやっていないというのなら集まるかもしれないんだけど、どこの市町村も同じような発想で、同じような傾向、方向性の、こういうイベントを開催しているというようなことなので、私は、芸術館でもこの間もやっていました。子どもの何かイベントとか、旧県庁の広場でも何かやっていましたし、あっちでもこっちでも、いろんなイベントをやっているんですね。

そろそろ担当課として、我々のところにも1カ月間のイベントの情報が流れてきますけれども、そろそろ方向性、目的を明確にしたような、例えば補助しているような事業であるならば、少し整理整頓する時期も来ているのかなという感じがいたしております。

というのは、5回やってきたんですけども、例えば終わった後に、各商店街さんへのマーケティングリサーチとして、どれぐらい売り上げが上がって、その後、こういうお客さんがふえてきたとか、ふえなかったとか、そういうきめ細かな、やっぱりチェック機能を果たしていくことも大切なのかなと。

それはどの事業もそうなんです。ややもすると、そういうイベントに出てくるのを商売にしているという方もあるというような話を聞いておりますので、今日はこっちのイベント、明日はあっちのイベントと、イベントの会場を歩きながら、それを一つの商売にしているというような形になっちゃうと、ただ単なるイベントをやって、在来の個店の食堂とか飲食店を圧迫するだけの話というようなことも耳にしていますので、その辺のところの整理整頓も踏まえながら、少しイベントがどういう傾向にあるのかとか、その目的は何なのかとか、そういうものを少し整理整頓し、新たな商店街の形成に役立つような資料なり、そういうものをつくっていく時期に来ているのかなというふうに私は思っております。

今まで、黄門まつりもそうなんですけれども、そのときは人がたくさん集まった。安心感はあるんですよ、わっと人がいっぱい来たと。安心感はあるんだけど、それが通年型として、どうつながってくるのかが明確じゃなくて心配なので、意見なんだけれども、もし課長のほうで、今後こういうイベントの、いわゆる

後のチェック機能，どういうふうにすべきなのか，そういうお考えがあるのか。そういうものをもしお持ちならば，ちょっと聞かせていただければと思います。

○栗原委員長 小林商工課長。

○小林商工課長 ただいまの渡辺委員さんからの，手段としてイベントをやった後にどういった形でそれを生かすのかという，チェック機能をどのように考えていくのかという御質問だったかと思いますが，私ども事務局といたしましても，同様に非常に大切なことだと考えておりますので，実行委員会に入っている皆様を初め，各商店街の皆様とも距離を短くして，このあたりを丁寧に議論をして，継続して集客できるようなイベント，また，各商店街が参加の意思をもっと持っていただけるようなイベントに成長していくような手法について，考えていきたいと考えております。

○栗原委員長 渡辺委員。

○渡辺委員 ありがとうございます。ぜひ，そういう取り組みをしていただきたいと思います。

要は，なぜそういうチェック機能を働かせてやってくるかというようなことを言ったのは，御案内のように，今，新市民会館，都市計画決定しましたよね。どんどんこれから先，進捗していくはずですよ。再開発事業として認定を受けたり，また，その周辺整備も含めて進んでくるんですけども，やはり私は，そういうもの，いわゆる商店街を取り巻く整備の環境などをしっかり商店街が受けとめて，どういう商店街にすべきなのかとか，そういうジャンル，そういう部門に，皆さん方はサポートしていただきたいんですよ。

何ができて，今までと同じ，イベントやっていたらいいんだというようなことじゃなくて，新しいそういう施設とか，また歴史的な環境の整備とか，また医療施設の，今度新しく新館ができるとか，そういう事実，現実を，どんな形で商店街として受けとめて，じゃどういう商店街にすべきなのかというようなことも，私は大事な今の時期だと思いますよ。

市民会館ができてから考えようなんて言っているのでは遅いんですよ。今のうちから考えて，オープンに合わせて，こんなことをしていこうとか，あんなことをやろうとか。そして，それに基づいた，そういう商店街づくりを今のうちからみんなで話し合おうとか，イベントやればこれだけ来るんだと。だったら，市民会館にこういうイベント，何か同じような，例えばイベントがあれば，もっとそこにも人が来ると。じゃ，その人を何とか呼び込むようなことにしようじゃないかと。そういう積極性がある，前向きな商店街づくりをお願いしたいんです。

個性が今，埋没しているんですよ，商店街としての。もちろん商店の数も少なくなっちゃった，いろんなことがあるけれども，それを今度逆手にとるような，そういう商店街づくりも考えられるんですよ。事業系と商店，個店の小売店が一緒になったような，そういう商店街づくりとか，そういうのも私は考えられると思うので，そういうものを私は今，意見として述べておきますので，ぜひこのまちなかフェスティバルを一つの足がかりに，次のステージ，次の発想につながるような，そういう創造性のある取り組みを期待いたしております。

以上です。

○栗原委員長 よろしいですか。

ほかにございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○栗原委員長 ないようですので、次に、一黄門さまの歩いた道一第12回水戸黄門さま漫遊ウォークについて、執行部から説明願います。

小川観光課長。

○小川観光課長 水戸黄門さま漫遊ウォークにつきまして御報告いたします。

観光課提出資料、一黄門さまの歩いた道一第12回水戸黄門さま漫遊ウォークについてをごらんください。

水戸黄門さま漫遊ウォークは、水戸藩時代から深い関係があった本市と常陸太田市、那珂市が友好と連携を深め、ウォーキング事業を通じて、それぞれの観光資源を広く紹介することを目的として開催いたします。

水戸黄門さま漫遊ウォーク実行委員会の主催により、平成28年10月1日土曜日に開催いたします。

内容につきましては、3つのコースを設けており、それぞれ募集定員を100名としております。

Aコースにつきましては、水戸市から那珂市までの13キロメートルのコースとなっており、県三の丸庁舎広場を出発後、日本遺産に認定されました弘道館や水戸二中周辺の水戸城址、そして、黄門さんの漫遊さくら堤などをめぐりながら、那珂市の一の関ため池親水公園まで行くコースとなっております。

Bコースにつきましては、Aコースに引き続きまして、那珂市の阿弥陀寺や額田城跡、都々逸坊扇歌の碑などをめぐり、常陸太田市の西山の里「桃源」までの合計28キロメートルのコースとなっております。

Cコースにつきましては、BコースからAコースの分を除いたルートを逆に常陸太田市から那珂市に行く15キロメートルのコースとなっており、3コースとも、主な史跡等について観光案内を行ってまいります。

また、昼食時の一の関ため池親水公園におきましては、3市長による印籠引き継ぎ式やプレゼント抽せん会、水戸黄門様御一行や3市のマスコットキャラクターによるおもてなしを行ってまいります。

裏面の2ページをごらんください。

広報といたしましては、ポスターなど、記載のと通りの広報事業を行ってまいります。

7番の今回の見直し、変更点といたしましては、より多くの参加者を求めるため、JR東日本水戸地区の46駅にポスターを掲出するとともに、水戸黄門さま漫遊ウォークのオリジナル紹介動画を作成し、3市のホームページやYouTubeなどに載せてまいるなど、広報力の強化をいたします。また、本年7月にオープンしました道の駅ひたちおたを行程に追加いたしました。

報告は以上でございます。

○栗原委員長 内容について御質問等がございましたら、発言を願います。

渡辺委員。

○渡辺委員 これも、回を重ねて12回というようなことで、市民の健康維持・増進に大きな寄与をしているというようなことで、私は評価をいたしております。

例年同じようなコースで、今、目をつぶって小川課長の話を聞いていたら、何回同じようなことを聞いたかなと感じたんですけども、これ、例えば、黄門さんという名前をつけて、こういう歩くのをやっているんですけども、今度、水戸黄門漫遊マラソンもあるんですね。

私、常々、ちょっと感じていたんですけども、水戸黄門漫遊マラソンのときも、一番最初の実行委員会で見たときには、水戸徳川家第15代当主の斉正さんの名前が入っていないんだよね。水戸黄門漫遊マラソン

という名前をつけている割には、何か無視されているような、無視しているというのかな、そういうような感じが、軽視ではないんだろうけれども、最初から意識が全然ないのかなと思っていたぐらいなのね。

ちょっと第1回の実行委員会でそういう意見を述べさせてもらったんですよ、おかしいでしょうと。水戸黄門漫遊マラソンとつけているのに、実行委員会に、水戸徳川さんの名前がないのはおかしいんじゃないんですかというようなことを話して、今度入れてもらうようになって、今度スターターになっていただくなんていうような話をしていましたけれども、要は今、いわゆる柱となって、水戸徳川家ときちんと常日ごろの交流をしているのは観光課でいいんですか。

○栗原委員長 小川観光課長。

○小川観光課長 渡辺委員の御質問、水戸徳川家との交流についてのことかと思うんですが、観光振興を図るため、徳川ミュージアムは観光拠点の一つとして、大事な施設であると考えております。

徳川ミュージアムに対しまして、観光課のほうから、企画展の開催事業に対して補助金の支出を行っているところでありまして、これらを絡め、梅まつり等で連携した事業とかも行っているところでございます。

また、歴史的な部分につきましては、歴史文化財課などがかわってございます。観光事業につきまして、水戸徳川家との連携は深めているところでございます。

○栗原委員長 渡辺委員。

○渡辺委員 今、いみじくも徳川ミュージアムの話も出ました。また、歴史的な部分については歴史文化財課が担当というようなことで、交流という部分では文化交流課にちょっと話聞いたのね。そうしたら、こういう話をしていました。文化交流課は、一つ一つの事業ごとにそれが担当していて、水戸徳川家としっかりした、常日ごろ日常的なそういう交流、いわゆる別に事業の交流じゃないですよ。水戸徳川家といたら、やっぱり水戸を代表する、水戸市とは切っても切れない縁ですよ。そういう柱はないと。

だから、事業があるごとに接触しているのが、徳川家との交際、連携であるというような話だったんですけども、果たしてそれでいいのかどうか。どうなんですか、部長。そういうことなので、それで間違いないんですか。しっかりした担当課というのはないのね。事業があるごとに、その事業の主体の課が、そういう打ち合わせとか協議をするということになっているようなんですけども、そういうことを承知していますか。

○栗原委員長 小田木産業経済部長。

○小田木産業経済部長 ただいま渡辺委員から御質問のありました水戸徳川家の関係でございますけれども、先ほど観光課長が答弁申し上げましたとおり、水戸市の観光の重要な資源であるという観点から、水戸徳川家との交流につきましては観光課、そして、歴史的な資源ということで歴史文化財課、この2つが中心になって、イベントだけではなく、これからの水戸徳川家を生かした歴史のまちづくり、観光のまちづくりに向けての協議を進めているということでございます。

○栗原委員長 渡辺委員。

○渡辺委員 言葉ではそういうような話はあるんでしょうけれども、今度、9月議会で質問しようかなとは思っていたんですよ、実は。水戸徳川家と地域振興という部分の中で、本当に水戸市としての、例えば企画能力とか、政策の方向性を決めるとか、そういう担当がいなくて、現場に任せて本当にいいのかなと。

15代当主の奥様は、会津保科家のお姫様ですよ。でも、もうお年を召してきて、息子さんたちも成人しているんだよ。16代当主も、いろいろ今から、大変な刀剣や什器などの歴史的な史料を含めて、そういうものを維持、継続していかなくちゃならないという大きな役目を担っているのよ。そういう大事な大事な水戸徳川家に対して、事業だけで交流しているなんていうのは、もってのほかなんじゃない。しっかりした、そういう柱があつてしかるべきじゃない。そういうところが膝を交えて、今の悩みとか、そういうものもしっかり受けとめる、そういう体制づくりがあつてしかるべきでしょうよ。

紀州徳川家を見なさいよ。ほかの尾張にしても、宗家にしても、水戸にしても、水戸は前は水府明徳会という形で、財団法人化してやってきて、何とかしたけれども、紀州はもう何もないよ。たくさんの史料、そういうものはなくしちゃったんですよ。そういうものを考えた場合、水戸は徳川宗家と同じぐらいに、そういう歴史的な重要なものをたくさん今保持していますよ。それで、震災であの史料を入れている石蔵が崩れちゃっているのよ。そういう話、知っていますか。

そういうものを含めたら、その都度その都度の担当の課長さんなり係長さんが行って話をするなんていうレベルの問題ではないような気がするんだけどね。これから水戸市と水戸徳川家が連携しながら、もっともっと水戸の地域振興に御協力もらいましょうよ。水戸城大手門にしたって、二の丸、三の丸の周辺整備にしたって、弘道館にしたって、水戸東武館にしたって、黄門さんからの直系の斉正さん、水戸家があった、水戸様がいたからこそこの水戸のまちなのではないの。そういう認識を持っていますか。

今日は副市長さんもお見えになっているので、こういうことを聞いたんですけども、ぜひ、黄門さんで名前つけるのは結構だけれども、本当に黄門さんの偉業とか遺徳をしのぶような、そういう気持ちもみんな勉強してよ。それを現代につなげているのが、今の斉正さんだよ。ぜひそういう意識を高めていただいて、水戸徳川家にも、私は感謝と敬意を持っているよ、いつも。そういう気持ちを、トップから下の職員さんもそういう意識を持ってもらうということが、地域振興に大きく、私は役に立ってくると思います。

そういう意味で、ぜひ今後、そういう事業があるからといえ、その都度ごとのおつき合いではなくて、やはりきちんとした水戸徳川家という敬意と權威を守る、そういう交流をしていただきたいと。そういう仲間になっていただきたいというようなことを意見として述べておきます。

○栗原委員長 ほかにございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○栗原委員長 ないようですので、次に、その他に入ります。

委員より何かございましたら、発言をお願いします。

内藤委員。

○内藤委員 今、渡辺委員のほうからいろいろ話がありましたけれども、私のほうからも一つだけちょっと。

いつも、私も議員になって、なる前からそうかもしれないけれども、私もやっぱり水戸生まれ、水戸育ちなので、やはり水戸を一番大事に思っているんですよ。そういう中で、イベントもしくはお祭り、いろいろありますよね。そういうものを、私も最近、50歳を越えてから、いろんな地域の新聞に載ったり、いろんな話を聞くと、それを私も見に行くようにしているんですよ。どういうふうに相手は、ほかの市、ほかの町ではやっているのかなということだね。

私、北広島、何というんですか、船がまちの中を練り歩く、それも見に行ってきたし、実は今年、高松の総おどり、これも私も行けなかったのは、ちょうどそのときに高知のよさこい、それから徳島の阿波踊りがあるよね。この2カ所、それを両方見てきたんですよ。いや、これ、人の出と、それから踊る数から比べれば、私は水戸のほうが多いと思うんですよ、私が見てきた限りでは。

というのは、どちらも栈敷席とって、お金を払って見る席があるんですよ、何か所か。そこへ座って見たんですけども、そういうときに、それを見ていて、活気がある、物すごい熱ですよ。ですけども、出ている人数、それから見ている、栈敷席以外の町なかのあれを見ると、これは水戸のほうが多いかもしれない。ですけども、活気が違う。

私たち水戸市議会としては、郵便局から大工町まで今年は歩きましたけれども、向こうはそういう長い踊りではないんですよ。栈敷席の前を通るのが、戻るのが、向こうの方にとっては一番の見せ場なんですよ。ですから、そういうところを、やはり副市長、一般の課長、係長では答えられないと思うんですけども、やはりそういうところへ行って見てきていただく、そして、そういう何かを取り入れる、そういうのが必要じゃないかなと思うんですよ。

今、渡辺委員も言いましたけれども、だからそういう何かイベントをやれば、それをただ続けていけばいいんだということではだめだと思うんです、私もね。やはり、そういうお祭りにしても、フェスティバルにしても、それと同じようなことをやっているまちがあれば、やはり執行部の皆さん、誰かに行っていて見てもらって、そして、向こうのいいものは取り入れる、だめなものは取り入れない。そういうことをやっていかないと、恐らく水戸のお祭りも、だんだんしなびれていっちゃうような気がするんですよ。

一つだけちょっとお聞きしますけれども、今回、この前聞かなかったんですけども、今までより今年はどうだったの、出た人数は。

○栗原委員長 小川観光課長。

○小川観光課長 昨年は93万9,000人のところ、今年度につきましては93万3,000人ということで、若干、人の出につきましては減少してございます。

○栗原委員長 内藤委員。

○内藤委員 誰が数えたのと言われたけれども、本当に出たの、90万人も。花火からでしょう。

○栗原委員長 小川観光課長。

○小川観光課長 3日間の総合の数字でございまして、それぞれのイベントの人出を集計しまして、先ほど申し上げた数字を推定の数字として発表してございます。

○栗原委員長 内藤委員。

○内藤委員 わかりました。本当、私もすごい人だったと一番先に言いましたけれども、本当に、それは少しの違いはあっても、大体それに近い数字だとは私も思います。

ただ、あれだけのみこしのお祭り、それから花火、それから踊りをやっていて、それだけの人が出てくれるのに、これがただただ、毎年毎年同じことを繰り返しているからまたやるのでは、どんどん減っていくんじゃないかなと思うんですよ。ですから、少しでもそういう、水戸に似通った阿波踊りとかよさこい、水戸も踊りですから、踊る日はね。ですから、そういうやつは、そういう場所で、こういうことやっている

んだということを見てくるのも、私は一つの水戸市の発展につながるんじゃないかなと思うんですよ。

確かに私も、そういう踊りを見たのは初めてなんですけれども、向こうはどちらも、よさこいも阿波踊りも、だらだら踊っていないんですよ。その栈敷席、そこがまず向こうは、夢中になって踊るわけですよ。それと、私、第1回目から言っているんですけども、水戸の踊りはだらだら前に進まない。だから、速く進む方法を踊る人らに言っていかなきゃだめですよということを、私、何回も言ってきたつもりなんですけれども、全然変わらない。

というのは、踊り方はみんな一緒なんだよ、向こうもね。阿波踊りもよさこいもみんな同じ。ただ、進むのが違う。進むのが速い。ですから、1パーティーが栈敷席を過ぎるのは、そんなに時間食わない。そして、次のグループがまた入ってくる、それがまたやっていく。それをメインで紹介するうちに、その紹介している場所をその紹介された方々はどんどん去っていくと、次のグループがまた入ってくる。そういう、水戸と変わらないんですね、踊り方。ただ、水戸の場合には栈敷席がないから、ただだらだら、ぐるっと回っているだけ。

それで、議会の場合は途中から入るから、郵便局前から入って、大工町から太津美屋へ上がるころは、今でもあるんですけども、太津美屋さんでパーティーをやったときは、大工町から上がった。けれども、やはり郵便局まではたどり着かない。行っても折り返した地点で終わり。今回もやっとなら、郵便局前から上がったことに対しては大工町まで来た、帰りは行かない。

というのは、休憩もあるのは当たり前だけれども、踊り方が前に進まない。だから、みんな遅い。みんな見せたいのはわかるけれども、やはりある程度速く歩く踊りをしないと、あんなふうな今の水戸の踊りになってしまう。だらだらで、なかなか進まない。

それで、今年もあつたんですけども、いや、議会が出ているというから見に行ったんですけども全然見えなかった、どこにいたの、内藤さんらと。どこにつて、ちゃんと郵便局前から大工町までは来ましたよと言ったんですけども、反対側にいたのか何か、議会のちょうちんなんか見なかったと言われたけれども、やはり少なくとも3分の2、もしくは、できるなら一回りくらい回れるくらいの踊りの速さでやったほうがいいんじゃないかなと思う。

ですから、そういうものを、ほかでもやっているところたくさんあるんですから、そういう機会があったら、職員の皆さんが自分の実費でというのも大変だろうから、今、副市長さんと言ったのは、そういうことを考えていただいて、そういうところに行っていただくのも、見てきていただくのも、一つのあれかなと思うんですよ。

そこいら、これから、答えは副市長、今は結構ですから、頭に置いておいてください。すみません、答えはいいです。

○栗原委員長 ほかにございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○栗原委員長 それでは、以上をもちまして本日の産業水道委員会を散会いたします。

御苦労さまでした。

午前10時46分 散会